

2. 伊丹市の概況

2.1 位置

本市は、兵庫県の南東部に位置している。神戸市から約 20km、大阪市から約 10km の圏域にあり、尼崎市、西宮市、宝塚市、川西市、大阪府池田市および豊中市に接している。



図 1 伊丹市の位置

2.2 広ぼうと面積

本市の広ぼうは、東西に 7.0km、南北に 6.5km、面積は 25.09km² で、兵庫県の市部では、芦屋市に次ぐコンパクトな市となっている。

2.3 地形

市域の東西には猪名川と武庫川が流れている。

阪神間の沖積平野に唯一突き出た小高い段丘に形成された市街地である。概ね平坦地で、市域の北端部では標高約 45m、南端部では約 5.5m（最低点）となり、北から南へ緩やかに傾斜している。また、段丘の間に昆陽池陥没地帯が東西に横断している。市を代表する昆陽池公園から瑞ヶ池公園、緑ヶ丘公園、伊丹緑地へと続く半環状の緑地が市内で意外と目立たないのは、この陥没帯に位置しているためである。

2.4 気象

(1) 気温

伊丹市の気候は、周囲の六甲・長尾・生駒などの山地から吹く風の影響を受け、半盆地的な様相を示している。そのために、夏季と冬季の気温の較差は近隣の大阪市などと比べて大きくなっている。

平成元年～15年の年間気温は、最高気温 35.6、最低気温-2.9、平均気温 16.3 となっている。

年月	気温(°C)		降水量(mm)
	最高	最低	
平成元年	33.3	-1.9	1,581.0
2年	36.8	-4.1	1,570.5
3年	34.6	-3.5	1,247.0
4年	34.3	-1.9	1,115.5
5年	34.7	-2.2	1,581.0
6年	38.7	-1.6	863.5
7年	37.2	-1.6	1,217.5
8年	35.5	-0.6	1,287.0
9年	33.4	-5.2	1,362.5
10年	33.7	-3.2	1,542.5
11年	35.8	-4.7	1,477.0
12年	37.4	-2.1	1,165.5
13年	37.5	-2.6	1,024.0
14年	37.5	-2.6	890.0
15年	34.1	-5.0	1,521.5
平均	35.6	-2.9	1,296.4

(資料：伊丹市消防局)

(2) 風向

伊丹市では、夏季は東寄りの風が生駒山地を、冬季には北寄りの風が六甲・長尾山地を越えて吹きおろすため、それが気温にかなりの影響を与えるとともに、雨の少ない気候をもたらしている。

(3)雨量

平成元年～15年の年間総雨量の平均は1,296.4mmであり、また、全国の年平均降水量(1,718mm)と比較しても少なくなっている。降雨は夏季に多く、冬季には晴天に恵まれるという瀬戸内気候型の特徴を示している。

出典：国土交通省資料(昭和46年～平成12年の期間の全国51地点の平均値)

2.5 歴史

伊丹は古来、交通の要衝として、摂津地方の仏教文化の一中心地として栄えていた。奈良時代には旅人を救う昆陽施院(現在の昆陽寺)が名僧、行基によって開かれ、平安時代には2度、遷都の候補地となった。町ぐるみ要塞化した、全国的にも珍しい「惣構え」の有岡城は、難攻不落の名城として知られたが、城主・荒木村重が織田信長に反抗し、攻め滅ぼされた。

有岡城の城下町では江戸時代初期、酒造業がおこり、全国に先駆けて産業としての清酒醸造法を確立した。清酒出荷量全国一の地位は途中で灘に譲ったが、味の良さで人気を集めた。その豊かな経済力を背景に文芸が流行して、松尾芭蕉と並び称される俳人・上島鬼貫(うえしまおにつら)を生んだ。

また、園芸業も古くから盛んで、「芽接ぎ」などの独特な技術を受け継ぎ、隣接する宝塚市山本地区とともに日本3大樹木生産地の一つを形成している。

2.6 交通

鉄道は、JR 福知山線(伊丹駅、北伊丹駅)と阪急電鉄伊丹線(伊丹駅、新伊丹駅、稲野駅)があり、大阪・神戸および阪神地域の都市と結び、山陽新幹線が市域の南部を東西に通過している。

道路は、国道171号が市の中央部を東西に横断し、中国自動車道が市域の北部を東西に通過している。

また、市域の東には大阪国際空港が立地している。

2.7 人口

(1)人口

平成12年で192,159人となり、増加傾向を続けている。人口の増加率は、昭和55年～昭和60年、昭和60年～平成2年、平成2年～平成7年、平成7年～平成12年でそれぞれ3%、2%、1%、2%となっている。

平成12年の世帯数は70,846世帯であり、一世帯あたり人員は2.71人で、核家族化の進行などに伴い減少が続いている。

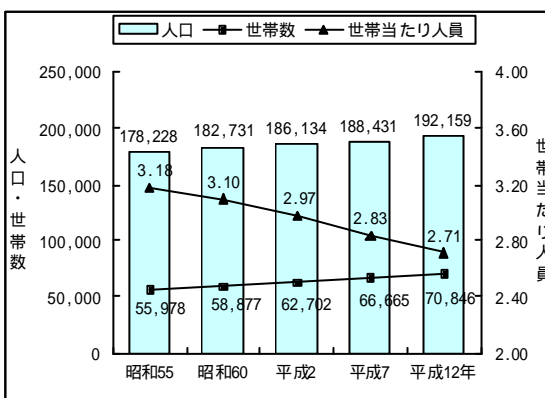


図2 人口・世帯数・世帯あたり人員の推移
(資料：国勢調査)

(2) 年齢別の人口構成

少子高齢化が進んでいるが、14歳以下の年少人口が15.8%（全国平均14.6%）、15～64歳の生産年齢人口が71.0%（同67.9%）、65歳以上の高齢人口が13.1%（同17.5%）と、全国平均より若年層が多くなっている。特に10歳未満と25～34歳くらいの層が多いことが特徴的である。

■ 1人世帯 ■ 2人世帯 ■ 3人世帯 ■ 4人世帯 ■ 5人以上世帯

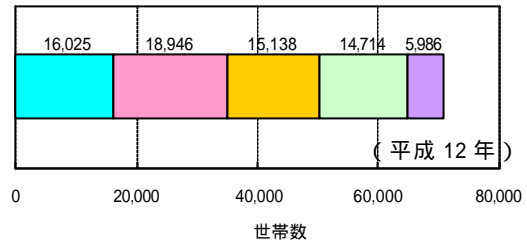


図3 世帯構成 (資料：国勢調査)

(3) 人口動態

各年1,000人以上の自然増はあるものの、社会増減では概ね転出超過の傾向が見られている。

年齢別の転入出の状況では、15歳から29歳で転入超過、他の年代で転出超過となっている。特に、30歳代と5歳未満の転出超過が目立っている。

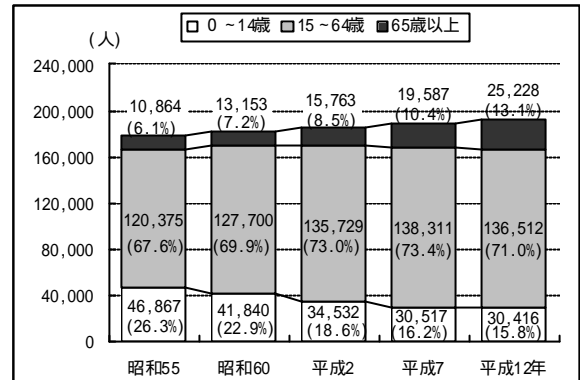


図4 年齢別人口 (資料：国勢調査)

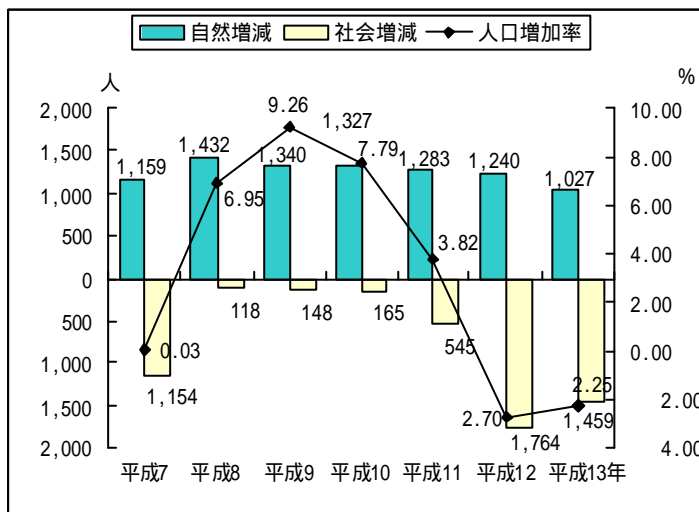


図5 人口動態

(資料：国勢調査)

表 年齢別転出入動態 (人)

年齢	増減	転出計	転入計
0～4	-265	1,018	753
5～9	-49	388	339
10～14	-40	176	136
15～19	179	434	613
20～24	107	1,344	1,451
25～29	20	2,070	2,090
30～34	-174	1,561	1,387
35～39	-108	754	646
40～44	-41	413	372
45～49	2	293	295
50～54	-37	386	349
55～59	-42	237	195
60～64	-71	219	148
65～69	-24	353	329
不明	-261	479	218
総計	-804	10,125	9,321

2.8 産業

(1) 事業所数および従業者数

産業分類別の事業所数で最も多いのが、卸・小売業、飲食店、次いでサービス業となっており、この2業種で7割を占めている。事業所数を経年的に見ると、全体では平成3年をピークに減少している。

産業分類別の従業者数で最も多いのが、製造業、次いで卸・小売業、飲食店となっている。従業者数を経年的に見ると、平成8年をピークに激減している。

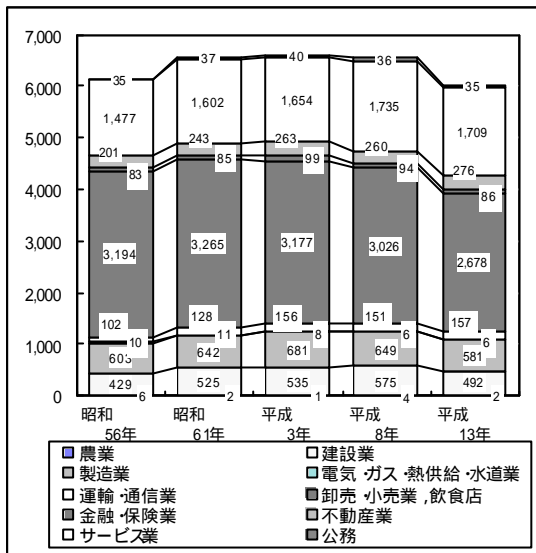


図6 産業大分類別事業所数
(資料：事業所統計調査)

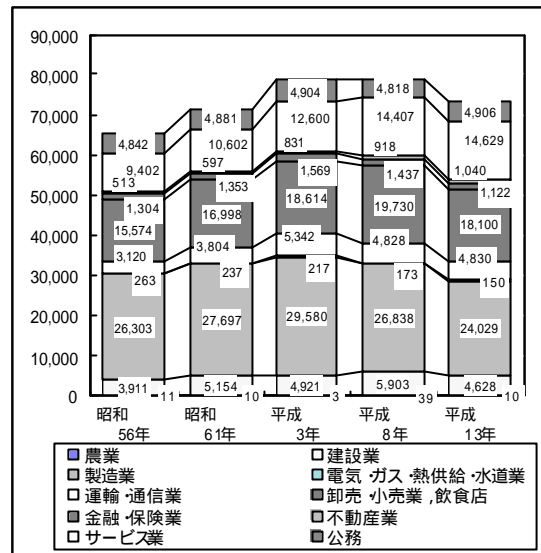


図7 産業大分類別従業者数
(資料：事業所統計調査)

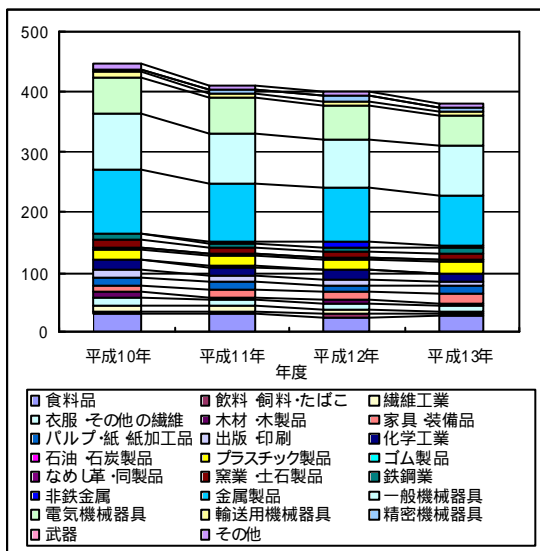


図8 産業中分類別事業所数
(資料：事業所統計調査)

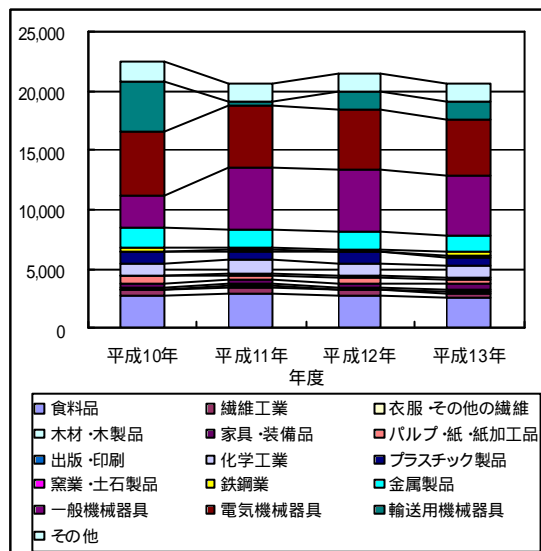
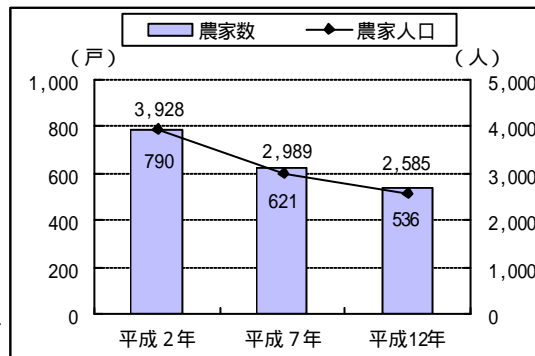


図9 産業中分類別従業者数
(資料：事業所統計調査)

(2) 農業

農家数及び農家人口ともに減少を続けており、平成12年の農家数536戸、農家人口2,585人となっている。

図10 農家数、農家人口
販売農家：経営耕地30ha以上または、農産物販売金額50万円以上
(資料：農業センサス)



(3)〔工業〕

工業は、地場産業である酒造業をはじめ、新素材、光ファイバーや超 LSI などの最先端をいく大企業や高度な技術力を有する中小企業がある。一般機械器具、電気機械器具が、事業所数、従業員数、製造品出荷額等とともに上位を占めている。

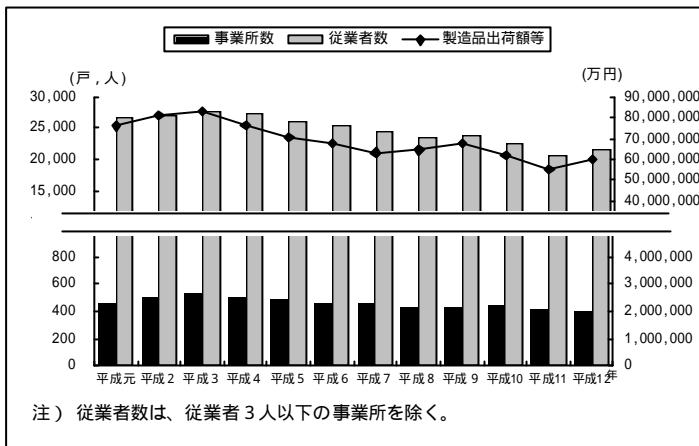


図 1.1 工業事業所数、従業員数、製造品出荷額等の推移 (資料：工業統計調査)

(4)〔商業〕

年間商品販売額は、平成14年には3億6千万円と、平成3年のピーク以来、減少傾向が続いている。

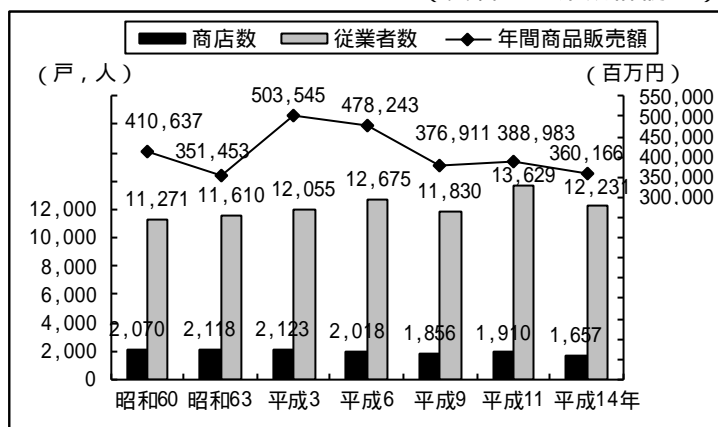


図 1.2 商業事業所数、従業員数、年間商品販売額の推移 (資料：商業統計調査)